様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２３年４月２５日現在

機関番号：22604
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008　～　2011
課題番号：20560577
研究課題名（和文）精神疾患患者の継続的な受療行動分析に基づく包括的社会復帰支援システム・環境の構築
研究課題名（英文）Study on social rehabilitation system and sheltered care settings for person with mental disorder based on continuous analysis of hospitalized patients
研究代表者
竹宮　健司（TAKEMIYA　KENJI）
首都大学東京・都市環境科学研究科
研究者番号：70295476

研究分野：工学
科研費の分科・細目：建築学，都市計画・建築計画
キーワード：精神疾患，受療行動，社会復帰支援

１．研究計画の概要

日本の精神科病棟には，世界一多い約 32 万人が入院している．平成 18 年の障害者自立支援法の施行に伴う基本方針の中で，国は 2011 年までに精神科病院の入院患者５万人削減を目標値として定めた．しかし，入院患者が病院を退院してから社会復帰していくまでの具体的な支援方法・プロセス・環境については具体的な方策・指針は示されず，現状では，それぞれの病院の独自の取り組みに委ねられている．精神疾患患者が治療の段階に応じて適切な療養環境で過ごし，退院後も段階的に社会に復帰して行くことができるためのケアと環境の両面からの包括的な支援態勢の構築が求められている．

そこで，本研究では精神疾患患者が受ける治療・支援・療養環境からの影響を広義の受療行動と捉え，精神疾患患者の入院中から退院後に亘る受療行動について継続的に捉え分析を行う．そして，患者の治療や回復に応じた段階的支援態勢のあり方を実証的に示し，病院から地域の生活環境へ連続した包括的社会復帰支援システムと療養環境を提案・構築することを目的としている．

以下に本研究の課題を示す．

（１）医療施設内の患者の受療行動の解明

これまで明らかにされてこなかった精神科医療施設内での患者の回復過程に伴う病棟移動，入退院経路などの受療行動の実態を明らかにする．また，医療施設内での患者の生活行動の実態を経時的な変化を含めて明らかにする．

（２）退院後の受療行動の解明

精神疾患患者が医療施設から関連施設や居住施設へ退院後の受療行動の実態を明らかにする．また，退院後の生活行動について事例的に明らかにする．

（３）社会復帰支援環境の実態の解明

退院後の居住環境についてグループホーム・ケアホームを対象として，居住形態，支援状況等を明らかにする．また，精神障がい者の就労支援環境について事例的に明らかにする．

２．研究の進捗状況

（１）医療施設内の患者の受療行動の解明

精神科医療施設Ｋを対象に，2007 年から 2009 年の３年間にわたり毎年，退院患者・入院中患者・通所部門利用者の基本属性転記調査及び病棟・通所部門の非参与型観察調査を行った．また，調査期間内に関連施設に退院した患者については，退院先での生活状況について非参与型観察調査とスタッフへのヒアリング調査を実施した．2009 年には，入院患者の行動変化を連続的に把握するため，急性期病棟で７日間，通所部門で２日間の連続調査を実施した．結果概要を以下に示す．①退院患者は高齢化，Ｆ３（気分障害）が増加傾向にある．全般的に軽快退院患者数が増加し，入院期間は短縮傾向にあるが，入退院を繰り返す患者が増加している．②退院患者の入退院経路・病院内転棟状況をダイアグラムとして示し，2007 年から 2009 年までの変化を示した．関連施設へ退院した患者の移動について詳細に把握した．③退院患者の入院期間，入院場所，生活場所の変化を基に数量化Ⅲ類とクラスター分析を用いて類型化を行い，主要な類型を見出した．④急性期病棟における患者属性，行為内容，姿勢，行為場所の関係を明らかにした．

（２）退院後の受療行動の解明

精神科医療施設Ｋの調査期間内に関連施

設に退院した患者について，退院先での生活状況について非参与型観察調査とスタッフへのヒアリング調査を実施した．関連施設に退院した患者を対象に，退院後の就労や生活状況を継続的に把握し，社会復帰過程で求められる支援環境に関する知見を整理した．

（３）社会復帰支援環境の実態の解明

精神疾患患者の社会復帰支援を積極的に行っている団体を対象に居住環境・就労支援に関する現地踏査・スタッフヒアリング調査を実施した．精神障害者のグループホーム・ケアホームの居住形態を類型化しその特徴を整理した．また，特色ある就労支援プログラム，就労環境，活動実態，等を把握した．

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している．

精神科医療施設Ｋにおける３年間の継続的な調査結果が得られ，本研究の主目的である継続的な受療行動分析が可能となっている．また，いくつかの先進的な社会復帰支援団体の協力を得て，精神障がい者の社会復帰支援環境関する知見が得られている．

４．今後の研究の推進方策

継続的な調査協力が得られてきた精神科医療施設Ｋであるが，2009 年度末に病院管理者が交代し，調査の継続が出来なくなった．しかし，すでに３年分の調査結果が得られており，医療施設内での受療行動については十分なデータが得られている．本研究の４年目（最終年）となる２３年度は，退院後の社会復帰過程に関する調査を実施し，これまでの研究データとともに包括的・多角的に分析を行い，研究論文として発表する．

５．　代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計０件）

現在，投稿準備中

〔学会発表〕（計５件）

１）阿部光・竹宮健司

精神科医療施設Ｋにおける三年間の受療行動分析　精神疾患患者の社会復帰支援システム・環境に関する研究 その 3

日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊，p.225-226，2010 年 9 月 9 日

２）吉本亜美・竹宮健司

精神障碍者グループホーム・ケアホームの居住形態に関する研究

日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1 分冊，p.1447-1448，2010 年 9 月 10 日

３）竹宮健司・阿部光

精神科医療施設Ｋにおける利用実態の経年変化に関する考察　精神疾患患者の社会復帰支援システム・環境に関する研究　その 1

日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊，p.253-254，2009 年 8 月 27 日

４）阿部光・竹宮健司

精神科医療施設Ｋにおける病棟内共用空間の利用実態に関する考察　精神疾患患者の社会復帰支援システム・環境に関する研究　その 2

日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊，p.255-256，2009 年 8 月 27 日

５）阿部光，竹宮健司

精神科医療施設の入院・通所部門の利用特性に関する研究，K 病院におけるケーススタディ

日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊，p.483-484，2008 年 9 月

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

○取得状況（計０件）

〔その他〕